

郷土の歴史と文化を子どもたちに ー本因坊のふるさと幸手ー



市では、平成19年4月から市内各小学校に囲碁クラブを立ち上げ、現在、多くの子どもたちが囲碁を楽しんでいます。
なぜ幸手の小学校で囲碁クラブが始まったのかご存知ですか。
それは、江戸時代の囲碁本因坊家8世伯元・9世察元・10世烈元(本紙3ページ〜5ページ下段参照)の墓石が市内で発見され、3人の本因坊が本市出身と分かったことがきっかけです。本因坊を3代続けて輩出したことは、ほかに例のない、市として誇るべき文化的遺産です。
問合せ 学校教育課 ☎(43) 1111 内線632・FAX(43) 3188

プロ棋士による 入門講座を実施

小学校に囲碁クラブを立ち上げるにあたり、平成19年1月10日に、日本棋院プロ棋士宮崎龍太郎六段、武宮陽光五段を講師にお迎えし、学校囲碁指導員講座を開催しました。また、同年2月6日、7日は宮崎龍太郎、武宮陽光、水間俊文七段の3人のプロ棋士を講師に市内全小学校を回って、小学生囲碁入門講座も開催しました。

囲碁インストラクターが さくら小学校で指導

ほとんどの子どもが囲碁は初めてでしたが、プロ棋士の指導に興味津々の様子でした。

平成19年4月より、各小学校の囲碁クラブは活動を開始しましたが、モデル校として取組んでいるのがさくら小学校です。囲碁インストラクターの木下かおり先生に、数回にわたり直接ご指導いただきました。木下先生にはほかの小学校も見ていただき、ご指導をいただいています。
先生のわかりやすいご指



▲木下かおりアマチュア6段がさくら小学校訪問

指導は地域 ボランティアのみなさん

小学校で囲碁クラブを実際に指導していただいているのは、21人の学校囲碁指導員のみなさんです。ボランティアとして各小学校のクラブ活動の時間に、子どもたちに囲碁を初歩から丁寧に教えてくださっています。
学校囲碁指導員のみなさんは、地域の囲碁クラブなどに所属し、囲碁を楽しむだけでなく、囲碁の普及にも熱心に取り組んでいます。

小学生囲碁大会が 開催されました

囲碁を始めてまだ間もない子どもたちですが、その上達は目覚ましいものがあります。9路盤で打ち始めた子どもたちが、今では13路盤で囲碁を楽しむようになってきました。平成19年11月18日には幸手市文化祭の一環として「第一回小学生囲碁大会」が開かれ、12人の子どもたちが熱戦を繰り広げました。
※路盤/通常、縦横19本の線を持つ19路盤を碁盤と言います。初心者および初級者がルールを学び、実践の感覚をつかむために用いるものを、縦横の線の数から9路盤、13路盤と言います。



▲第1回小学生囲碁大会

本因坊って何!?



▼本因坊とは
「本因坊」は京都市左京区北門前町にある寂光寺の子寺の1つで、その僧侶であった算砂が織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に碁を教え、碁界の頂点である江戸幕府の碁所に就いたところから、碁碁の一流派の名前になったものです。
代々世襲制をとっていましたが、21世秀哉が引退した昭和14年以降は、本因坊戦の勝者に与えられる称号となりました。
本因坊家代々の墓は、3世までが京都寂光寺に、4世以降は東京都豊島区巣鴨の本妙寺にあります。幸手市で発見された3人の本因坊の墓石は、分骨されたかあるいは供養のために建てられたものだと考えられています。

▼武宮陽光五段による学校囲碁指導員講座



▶宮崎龍太郎六段による小学生囲碁入門講座



さくら小学校

関口諒さん（6年生）

「本を読んで打ち方を覚え
ました。休みの日にはお父
さんと対局しています。い
つか先生と対戦して、勝ち
たいです。」

湯浅多輝子さん（5年生）

「囲碁はルールがたくさん
あり、ほかのゲームとはま
ったく違います。まずは担
任の田中先生に勝てるよう
にがんばりたいです。」

囲碁ボランティア
山崎義明先生

「囲碁は、石を取ったり取
られたりの繰り返しなので
経験をつむことが大切です。
小学生たちは、まだ試行
錯誤でやっているから、良
い手や良くない手がさまざ
まで、定着するまでには時
間がかかります。でも、ひと
つひとつ覚えていく子ども
たちに感心するばかりです。」



さくら小学校

大山正明先生

木村幸子先生

「子どもたちの興味や関心
度は高いです。自宅では囲
碁ゲームや囲碁のテレビ、
本で勉強している子もいま
す。子どもたちも、この時間
を楽しみにしているようです。
日本の文化なので大切に
してほしいですね。向き合
ってできるので、人間関係
にもよいと思います。来年
度入部をしたいと思います。
チラホラ聞こえています。」



▼8世伯元
伯元は天神島の出身で、
小崎（尾崎）元右衛門の子と
して享保11年（1726）に
生まれ、15歳で7世秀伯の
弟子となり、寛保元年（17
41）に8世になります。
しかし、宝暦4年（175
4）に病気のため跡目を察元
に譲ると、すぐに亡くなっ
てしまいました。
基格は6段。墓石は天神
島の共同墓地にあります。

▼9世察元
察元は平須賀の出身で、
間宮又左衛門の子として享
保18年（1733）に生まれ、
幼小の頃に8世伯元の弟子
となり、宝暦4年に9世を
継ぎます。
明和3年（1766）に井
上因碩（井上家6世）との争
碁に勝って名人（9段）に昇
進し、明和7年（1770）
に基所に任じられ、前3代
が続けて若くして亡くなり
活気を失いかけていたところ
を救った「棋道中興の祖」
と言われています。
天明8年（1788）に亡
くなり、墓石は平須賀外郷
内の共同墓地にあります。

▼10世烈元

烈元はこれまで、江戸の
出身で幕府数奇屋方組頭山
本氏の出とされてきました
が、一時澤村姓を名乗って
おり、その点が不明といわ
れていました。しかし、研究
者により資料の中に「生国
武蔵（現在の埼玉県、東京都、
神奈川県、東京都）とな
っているものが発見され、
さらに、上吉羽の澤村さん
の墓地に「本人坊」と記され
た墓石があり、石造物調査
ボランティアのみなさんが
調査したところ、烈元の命
日と同じ日が刻まれていま
した。

また、澤村家の分家の過
去帳にも「本因防烈元日居
士（本来の諱は日実）と記さ
れており、10世烈元である
ことが確実になりました。
烈元は、寛延3年（175
0）の生まれで文化5年（1
808）に亡くなり、基格は
準名人でした。



▶9世察元の墓石

上高野小学校

渡邊裕也さん（6年生）

榎本直樹さん（6年生）

稲星卓さん（6年生）

「友だちにも囲碁を教えて
もらっています。とても楽
しいです。中学校に行つて
も、続けていきたいですね。」

囲碁ボランティア
永井國雄先生

「囲碁は、年齢性別を問わ
ず楽しめます。ただし、囲碁
が楽しくなるまでには、時
間がかかるもの。続けてい
くなかで、だんだんと楽し
さがわかってきます。これ
からも、囲碁を続けていつ
てもらいたいですね。覚え
た囲碁を更に下級生たちに
教えるような形が取れば
いいですね。」

上高野小学校

鈴木幸絵先生

「去年行われた小学生囲碁
大会では、上高野小学校の
子どもたちが、上位の成績
を収めました。ボランティア
の先生や、囲碁をよく知
っている友だちから教えて
もらっているのがいいこと
だと思えます。子どもたち
は上位入賞により自信がつ
き、いろいろなことに挑戦
できるようになりました。」



市教育委員会では、子どもたちが囲碁の体験を
通して郷土の歴史や文化に触れ、郷土を大切にす
る心を育てたいと考えています。さらに、囲碁を打
つことで「考える力」「集中力」が高まるという研
究も進められています。

また、囲碁の指導を地域のボランティアのみな
さんをお願いすることで、子どもたちはより多く
の人との交流を持ち、囲碁だけではない知識や経
験を得ることが出来ます。囲碁を通じて、新しい地
域コミュニティづくりを育んでいます。